

わがまち自慢

～町長室から～

い かたちょう
愛媛県伊方町
やました かずひこ
山下 和彦 町長



私たちが暮らす伊方町は、四国最西端、佐田岬半島に位置し、南の宇和海側はなだらかな白砂の連なる海岸、北の瀬戸内海（伊予灘）側はリアス式海岸を形成する、温暖な海洋性気候が育む美しい自然の中にあります。

平成 17 年 4 月に、旧伊方町と旧瀬戸町、旧三崎町が合併しまして、「新生・伊方町」が誕生しました。私が町政をお預かりして、今年で 7 年目に入りましたが、この間、常に心を砕いてまいりましたのは、新しい伊方町の「一体感の醸成」でした。そのために、3 町のインフラ整備や保健・医療・福祉の充実、町内運動会などの交流促進、あるいは佐田岬半島の伝統・文化を守り育てる「地域博物館構想の検討」などの諸施策を行って一定の成果を得たものと自負しております。

ただ、それを支えていただいていたのは、この地域に根付いている「合力（こうろく）の精神」であると思います。

この「合力の精神」とは南予地域の方言で「助け合いの精神」を言います。昔、佐田岬半島は道路事情が悪く、「陸の孤島」などとも呼ばれ、半島に点在する集落間の移動は船に頼るしかないこともありま

した。そうした地理的条件の悪い中、祖先の方たちは自然と、助け合いながらの暮らし方を根付かせてきたと考えられ、それが「合力」と呼ばれる独自の文化を育んできました。他の地域では「結い」とも言うようですが、そうした相互扶助の伝統が、この地域には色濃く残っており、隣近所や地域の連帯感が薄れているといわれる今日、私たちが大事にしている自慢であります。

それに、佐田岬の豊かな自然も自慢のひとつです。日本一細長い半島を貫く国道 197 号、通称「メロディーライン」を東西に走っていただくと分かりますが、東の伊方湾から西端の佐田岬まで、車窓に次々と現れる北の瀬戸内海と南の宇和海の景観や海の色の変化、半島に咲く様々な草花など、四季折々の美しい自然を楽しむことができます。

特に、春の半島一帯に咲乱れる山桜と秋の紅葉は圧巻です。

今後、県と連携してサイクリング用のブルーラインや看板などの道路整備を進めて参りますが、ツーリングドライバーに加えて、全国のサイクリング愛好者にもぜひ来ていただきたいと思っております。また、半島の景観を楽しんだ後、「亀ヶ池温泉」*で汗を流していただき

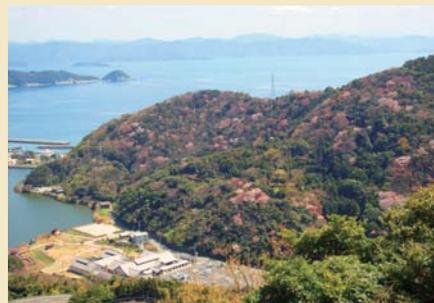
たい。この施設は、町が平成 19 年にオープンしたもので、泉質が良く、今年 100 万人の来館者を記録した人気の温浴施設です。

特産である「温州みかん」や「伊予柑」、「清見タンゴール」といった伊方町自慢の柑橘類や「アジ」、「サバ」、「じゃこ天」、「じゃこカツ」などの海産物、「金太郎芋」といった伊方町の味も堪能していただきたいと思います。また、伊方杜氏伝統の技で造った佐田岬の地酒もぜひ味わってみてください。

このように、私たちの町は豊かな観光資源に恵まれております。佐田岬半島の美しい自然があり、「合力」に代表されるあたたかい心を持った人々が住んでいます。また、誇れる歴史と文化もあります。そうした資源をもとに「伊方町総合計画」に示させていただいたように「協働・共生・個性を大切に、一人ひとりがキラリと光るまちづくり」に邁進する所存であります。（談）

※ 伊方町健康交流施設「亀ヶ池温泉」

1500m 地底の火山岩と鍾乳石の地層から出た四国最西端の天然温泉。「疲れを癒し、気持ちがあらぐ、快適なくつろぎ空間」をコンセプトに大浴場、露天風呂、岩盤浴、サウナ、塩サウナなどや、レストラン、交流物産館などの施設を併設する。休館日は毎月第 4 木曜日および 1 月 1 日。☎0894-39-1160



半島の春を華やかに彩る山桜。半島を横断する「メロディーライン」は山桜の名所として知られる

佐田岬半島の先端、「佐田岬灯台」。北側には伊予灘、南側には宇和海が、西側には豊予海峡が広がる。晴れた日には九州を遠望できる

